

## ホリー・ワーバートンさん、初の個展と講演会

主にイギリス、フランスなどヨーロッパで活躍している写真家・インスタレーション作家のホリー・ワーバートンさん(57)が、イギリス・ロンドン在住の町内初の個展「未踏路」を開き、初日の9月13日、文化ギャラリーで記念講演を行いました。



学校に通った地、旭川、北海道大学で言語学教授を勤めた弟、故知里真志保が暮らした札幌、そして東川では旭岳源水の源泉遊水池を訪れて撮影し、新たな作品制作の構想を練ったようです。

写真コラージュの技法を多用した神秘的な作品、幻想的な映像が特徴的。1980年代の初期カラー slides のコラージュ作品から現在の作品まで、映像とデジタルコラージュを組み合わせた約150点を展示しました。

作品の原点は、フランス小説に出てくる神話、ギリシャ神話の世界、神秘的な世界、夢に触発された作風といわれます。アイヌ神話にも興味を持ったようです。

「『アイヌ神話集』を書いて19歳で亡くなったアイヌ民族の知里幸恵に興味を持って道内を歴訪しました。通っていた学校、出身地を訪ね、アイヌ民族の衣装やそのデザイン、踊りを見て回りました」などとアイヌ模様から触発された作品も。

昨年9月、故知里幸恵生誕地の登別

## 道内大型水田発祥の地に完工記念碑

9月4日、東2号北2番地の東2号事務所前、北海道神宮神饌田(しんせんでん)向かいに、「上忠別地区大型ほ場整備完工記念碑」の除幕式を行いました。



せました。この地はその全道先駆けの地です。上忠別地区では、同年の秋から西2号から東4号まで117戸が大型田整備事業に着手、1966(同41)年に延べ395畝を現在の水田の形に大型化しました。その取り組みはすぐに町内に広がり、1974(同49)年には町内3千168畝の水田大型化が完成しました。

町営農指導対策協議会長の松岡市郎町長、ホクレン農業協同組合・板谷重徳副会長、高橋昭典町議会議長、樽井功東川町農協組合長、内田昌幸第28区農事組合長ら約40人が出席して序幕を祝いました。

1963(昭和38)年、道内初の大型ほ場整備として、故田村賢太郎氏が185区画にも細かく区切っていた水田を1区画30<sup>ア</sup>、15区画に再編する大型化を進め、わずか1カ月間で完成さ

同事業の完工後、旧上川支庁(現上川総合振興局の前身、旭川市6条10丁目)の前庭にイチイを記念植樹し、庭石を設置しました。その後支庁舎が旭川市永山地区に移転したため、記念碑を移設整備しました。

## 無事故誓って秋の交通安全祈願祭

9月18日、町交通安全協会(米田保会長)が主催して交通安全観音像(北町1丁目)前で秋の交通安全祈願祭を行い、繁忙期の無事故を祈願しました。

同日21日(月)から10日間行われた全道一斉秋の交通安全運動に呼応して

開きました。町内の行政区、事業所、小、中学校、団体の代表約60人が出席しました。

松岡市郎町長は「交通事故は人災。事故をなく



するため、家庭から、地域から、学校から交通ルールを守りましょう」とあいさつ。旭川東警察署の稲津隆明第一交通課長は「秋は飲酒運転が増える時期」と注意を呼びかけました。